

答はすべて解答用紙に記入せよ。

1 次のA～Cは、それぞれ、学校給食に関連する法律の条文を抜粋したものである。後の問に答えよ。

- A 第三十七条 栄養教諭は、児童の栄養の（ ① ）及び（ ② ）をつかさどる。
- B 第十条 栄養教諭は、児童又は生徒が健全な食生活を自ら営むことができる知識及び態度を養うため、学校給食において摂取する食品と健康の（ ③ ）との関連性についての指導、食に関して特別の配慮を必要とする児童又は生徒に対する個別的な指導その他の学校給食を活用した食に関する実践的な指導を行うものとする。（以下省略）
- C 第六条 食育は、広く国民が（ ④ ）、学校、保育所、（ ⑤ ）その他のあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の（ ⑥ ）から（ ⑦ ）等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを旨として、行われなければならない。

- 問1 空欄①～⑦にあてはまる語句を答えよ。
- 問2 A及びBの法律名をそれぞれ答えよ。
- 問3 Cの法律が制定された年を答えよ。

2 次の1～5は、令和4年度食育推進施策（食育白書）に関して述べたものである。後の問に答えよ。

- 1 我が国の令和3（2021）年度の食料自給率は、カロリーベースで（ ① ）％であった。
- 2 日本人の野菜、果実の摂取量は（ ② ）傾向であり、A第4次食育推進基本計画では、1日当たりの野菜摂取量の平均値や果物摂取量100g未満の者の割合について新たに目標を設定した。
- 3 第4次食育推進基本計画の重点事項の一つに「新たな日常」や（ ③ ）に対応した食育の推進がある。
- 4 B地場産物の活用はSDGs（（ ④ ）可能な開発目標）の観点からも有効である。第4次食育推進基本計画では、学校給食における地場産物の活用割合の算出方法を（ ⑤ ）ベースに見直した。
- 5 農林水産省では、地域固有の多様な食文化を地域で保護・（ ⑥ ）するための取組を進めている。

問1 各文中の空欄①～⑥にあてはまる語句の組合せとして正しいものを、次のア～キから一つ選び、記号で答えよ。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	38	減少	デジタル化	持続	金額	継承
イ	38	増加	情報化	持続	重量	伝達
ウ	40	減少	デジタル化	持続	金額	伝達
エ	40	増加	情報化	継続	金額	継承
オ	38	増加	デジタル化	継続	重量	伝達
カ	38	減少	デジタル化	持続	重量	継承
キ	40	減少	情報化	継続	重量	伝達

問2 2の文中の下線部Aについて、第4次食育推進基本計画では、令和7年度までに、1日当たりの野菜摂取量の平均値を何g以上とすることを目標に設定したと述べられているか、答えよ。

問3 4の文中の下線部Bに関して、第4次食育推進基本計画では、栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数を、令和7年度までに月何回以上とすることを旨と述べられているか、答えよ。